

目標	目標別平均	自己評価	現状分析	次年度への対策	学校関係者評価	
					評価	コメント
最重点事項 (教務学習部) ①「しこう(思考、試行)」②「振り返り」ができる生徒の育成	3.1	B	①「しこう(思考、試行)」については、生徒3.0ポイント、保護者3.2ポイント、教員3.3ポイントとなっており、生徒がやや低くなっている。授業では、思考や試行錯誤する場面を意図的に取り入れてはいるが、教師によっては取組状況に温度差があり、十分に生徒が思考したり試行錯誤させたりする活動が定着しているとは言えない。 ②「振り返り」については、生徒3.3ポイント、保護者2.7ポイント、教員3.0ポイントと生徒と保護者で大きな差が見られる。授業では、振り返りの時間を指導過程に取り入れつつあるものの、家庭での学習は復習等が不足しているためだと考えられる。	① 生徒が思考や試行錯誤する場面の設定については、教師による温度差をなくすために、研究授業で生徒が思考や試行錯誤する活動を指導過程の中に位置づけていく。また、思考や試行錯誤する時間であることを生徒に視覚的に示すための掲示物を準備する。 ②「振り返り」については、保護者の評価にやや落ち込みが見られるため、家庭学習における具体的な「振り返り」(復習やテストの反省など)の方法について指導を行っていく。	B	○ ①「しこう(思考・試行)」については、生徒の個人差もあると思うので、試行錯誤するようになると考えます。 ○ ①「しこう(思考・試行)」については、意見を出し合いながら目標(めあて)を設定し、活動させることが必要です。 ○ ②「振り返り」については、予習・復習の定着は難しい中で、先生たちはよく頑張っていると感じます。 ○ ②「振り返り」については、その時だけの勉強になっており、家庭での「振り返り(復習やテストの反省)」ができていないと感じます。 ○ ②「振り返り」については、設定した目標(めあて)に対しての改善の方法を考えさせることが必要です。
ア 確かな学力の育成 (教務学習部) ① 子どもが主役の授業をめざしての指導方法の工夫改善(実効性のある中中連携) ② 望ましい学習態度・学習習慣の確立 ③ 個別最適な学びの充実 ④ 各教科に応じた思考力・表現力の充実 ⑤ 家庭教育の充実	3.1	B	① 子どもが主役の授業については、教師3.2ポイントである。県の「ひなたの学び」や市の「子どもが主役の授業」について改善に取り組んでいるが、教員によって取組に状況に差がある。 ② 生徒が3.1ポイント、保護者が2.8ポイント、教員3.3ポイントである。授業と家庭学習の取組状況に差があり、全体的に家庭学習が不足していたり、取組状況が不十分だと感じたりしているのではないかと考えられる。 ③④ 個別最適な学びの充実や思考力・表現力の育成は、両方とも教師3.2ポイントである。教師によってタブレット端末の活用状況に差が見られる。 ⑤ 生徒が3.0ポイント、保護者が2.7ポイントであり、やや差がある。これは、保護者が家庭学習の取組の有無だけでなく、取組状況(集中力や積極性)を含んで評価を行ったためではないかと考える。	① 子どもが主役の授業については、引き続き研究授業や各種研修等を通じて改善の柱として取り組んでいく。 ② 望ましい学習習慣の確立については、特に家庭学習の充実について学級通信や学校だより、学級懇談会等を通じて、保護者との連携を行う。 ③④ 個別最適な学びや思考力・表現力の充実については、引き続き研究授業やタブレットの研修、受講奨励を通じて授業改善に取り組んでいく。 ⑤ 家庭学習の取組状況は、生徒によって温度差があるため、宅習ノートではなく、キュービナ(AIDリル)やプリント学習への変更を検討していく。	B	○ 全ての項目において、保護者と学校の連携ができるのは難しいと考えます。少しずつ進めれば良いと思います。 ○ 個別最適な学びの充実とありますが、どこまで最適化されているのか疑問です。学習する目的、意味などをもう少し理解してほしいです。 ○ 子どもが主役の授業では、教師ではなく子どもの視点に立って授業を行うことが大切だと思います。 ○ 家庭学習(宿題)は、無理のない範囲で生徒に行わせ習慣化することが大切だと考えます。
イ 豊かな心の育成 (生徒指導部) ① 教員全員で行う道徳の授業の充実 ② 規範意識の確立、リーダーの育成 ③ 体験学習の充実 ④ コミュニケーション能力の向上 ⑤ 積極的な生徒理解の推進	3.3	B	① 教員3.5ポイントである。全教員が輪番で道徳科の授業を行うことで、生徒が多様な価値観や考え方に触れる機会が増えるとともに、生徒の多面的な思考につながっている。一方、生徒3.1ポイントと教師よりも低くなっている。これは、少人数により、生徒間の意見や価値観の交流が限られているためではないかと考えられる。 ② 規範意識の確立、リーダーの育成については、生徒2.9ポイント、保護者3.1ポイント、教員3.3ポイントである。本校は少規模校のため、ほとんどの生徒がたくさんの係や役割を兼ねているが、役割が多すぎて十分に達成感を感じられていないためではないかと考える。 ③ 体験学習の充実については、教師3.5ポイントと概ね良好である。これは、本校が地域人材や資源を活用して、陶芸やしめ縄づくりなどの様々な体験活動を取り入れているためであると考えられる。 ④ コミュニケーション能力の向上については、生徒3.4ポイント、保護者3.3ポイントである。自分の考えをはっきりと意思表示できる生徒が多く、地域行事等にも積極的に参加している。 ⑤ 積極的な生徒理解の推進については、教員3.3ポイントである。小規模校の利点を生かし、日常的な対話や教育相談等、生徒と向き合う時間を概ね確保できている。	① 次年度も全教員による道徳授業の実施を継続していく。 ② リーダー育成に関しては、様々な生徒がリーダーとして活躍できる場を設定するとともに、一人一人の活動状況を見届けたり評価したりして、自己有用感を高めていく。 ③ 体験活動については、本年度同様に地域人材や外部機関を活用し、取組の充実を図っていく。また、体験して終わりではなく、「振り返り」を充実させることで、より多くの学びや成長につながるものにしていく。 ④ コミュニケーション能力については、引き続き、全教育活動を通して向上を図っていく。 ⑤ 積極的な生徒理解については、その場の声かけや、教育相談やスクールカウンセラーの活用等を更に充実し、よりきめ細かに行っていく。	B	○ 全ての項目において、先生たちは、よく頑張られていると感じます。本当に継続は力なりです。 ○ 道徳科の授業では、今後も継続して指導方法の充実を図ってほしいと思います。

目標	目標別平均	自己評価	現状分析	次年度への対策	学校関係者評価	
					評価	コメント
ウ 健やかな体の育成 (生指保体部)	3.3	B	① 心身の健康の充実については、生徒3.1ポイント、保護者・教員3.3ポイントである。生徒は、概ね健康的で規則正しい家庭生活や学校生活を送れている。 ② 体力づくりの充実については、生徒2.9ポイント、保護者3.0ポイント、教員3.3ポイントである。小規模校のため、昼休み等に外遊びをする生徒が少ない傾向にある。放課後は、生徒16名の中で部活動生2名、サッカークラブに2名参加しているが、スポーツを積極的に行っている生徒は少ない。ただ他の生徒は、小学校の児童クラブに行って小学生のお世話をしたり一緒に遊んだりしており、体を動かす機会は少なくはない状況である。 ③ 安全指導・防災教育の徹底については、生徒3.6ポイント、教師3.7ポイントである。交通安全教室や防災講話(水害・噴火)、避難訓練(地震・火災)など保健安全行事を計画的に実施している。 ④ 食に対する研修の充実については、生徒3.1ポイント、保護者3.2ポイントである。朝食の摂取率については、毎日食べていると回答した生徒は少数である。	① 生徒集会や委員会活動等を通して生徒の姿勢や生活習慣に対する指導・啓発を行う。 ② 昼休み時間に委員会活動等が入ることもあるので、外遊びばかりを優先できない現状もあるが、生徒会活動等のない日は外遊びを奨励していく。 ③ 来年度も引き続き、外部講師等を活用した講話や委員会活動を通して安全指導や防災指導を行う。 ④ 食に対する研修は、3学期に外部講師の講話を予定しており、朝食の摂取率を高めるように家庭とも連携していく。	B	○ ④「食に対する研修の充実」については、家庭環境もあるので、学校側がどこまで入れるかであるが、①「心身の健康の充実」、②「体力づくりの充実」、③「安全指導・防災教育の徹底」は、よくできていると思います。 ○ バランスのとれた食事、適度な運動、睡眠、生活習慣の定着など家庭と連携した取組を進めてほしいと思います。
エ 地域・学校がWin-Winの関係づくり (教務学習部)	3.2	B	① 地域人材・素材の積極的な活用については、教員3.5ポイントである。しめ縄作りや健康スマイルデーの講師、カルチャーフェスタの音響・照明担当など地域人材や素材の活用を積極的に行った。 ② 地域行事への積極的な参加については、生徒3.2ポイントである。生徒会活動を中心に、千足神社六月灯祭や地区のふれあい文化祭、高齢者施設での奴踊り披露などほとんどの生徒が積極的に参加した。 ③ 学校からの積極的な情報発信については、保護者2.3ポイント、教員3.2ポイントである。学級通信や学校便りを定期的に発行した。ホームページの閲覧数が少ないのは、生徒を通じて文書配付を行うため保護者に確実に届いていない場合もあるのではないかと考える。 ④ 学校運営協議会については、委員の出席率75%(3.0ポイント)である。5回中3回が昼間の開催のため、仕事の関係で出席できない委員もいらした。	① 来年度も、地域人材や素材の積極的な活用を行い、行事等を充実させていく。 ② 地域の行事に参加していく意識が高まっているので、今後も啓発に努めていく。 ③ 学級通信・学校だより、ホームページについては、保護者に見てもらえるように、内容の充実や周知を図っていく。また、学校便りだけでなく学級通信にも学校ホームページのリンクや2次元コードを添付する。 ④ 学校運営協議会は、昼間の開催が5回中3回あり、仕事をされている方が多いため開催時間等を検討していく必要がある。	B	○ ①「地域人材・素材の積極的な活用」は、(生徒の希望を聞いて決めているのかが不明であるため)、進路に直接関わるので、いろいろな意見を取り入れた方が良いと思います。 ○ ③「学校からの積極的な情報発信」については、SNSを活用しても良いと考えます。学級通信や学校だよりは、直接送ることで問題ないのではないのでしょうか。 ○ 地域の祭りや地区文化祭などへの参加など、大変素晴らしいと思います。 ○ 少人数の学校なので、地域のとの関わりがもっとあっても良いと思います。 ○ 地域行事への積極的な参加については、強制ではなく楽しみながら参加することが大切だと思います。